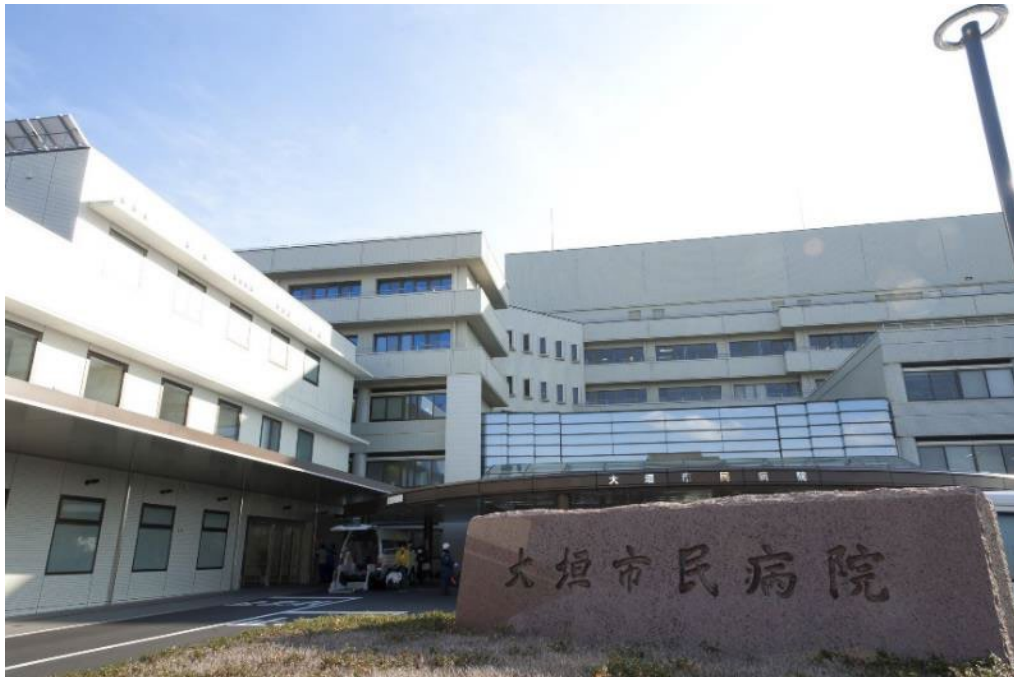


名古屋市立大学整形外科
(大垣市民病院)
専門研修Ⅱ型プログラム



目次

1. 名古屋市立大学整形外科（大垣市民病院）専門研修Ⅱ型プログラムの理念と使命
2. 名古屋市立大学整形外科（大垣市民病院）専門研修Ⅱ型プログラム研修後の成果
3. 名古屋市立大学整形外科（大垣市民病院）専門研修Ⅱ型プログラムの目標と特徴
4. 研修方法
 - 4.1 基本方針
 - 4.2 研修計画
 - ① 専門知識の習得計画
 - ② 専門技能の習得計画
 - ③ 経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査、手術処置等）
 - ④ プログラム全体と連携施設におけるカンファレンス
 - ⑤ リサーチマインドの養成計画
 - ⑥ 学術活動における研修計画
 - ⑦ コアコンピテンシーの研修計画
 - ⑧ 地域医療に関する研修計画
 - ⑨ サブスペシャリティ領域との連続性について
 - 4.3 研修および、プログラムの評価計画
 - ① 専攻医の評価時期と方法
 - ② 専門研修プログラム管理委員会の運用計画
 - ③ プログラムとしての FD(FacultyDevelopment) の計画
 - ④ 専門研修プログラムの改善方法
 - 4.4 専攻医の就業環境の整備機能
 - 4.5 研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について
 - 4.6 修了要件
5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医
6. 専門研修プログラムを支える体制
7. 募集人数と応募方法、病院見学の申し込みについて

1. 名古屋市立大学整形外科（大垣市民病院）専門研修Ⅱ型プログラムの理念と使命

近年は医師不足や医師の都市偏在化が社会的問題になっていますが、名古屋市立大学整形外科もこの問題を改善すべく東海地区の多くの病院に医師を派遣して地域医療貢献に取り組んでいます。また、大学病院として質が高くモラルのある医師の育成にも力を入れております。

愛知県尾張地域や三河、岐阜県の関連病院には医師不足地域が多く、整形外科の果たす役割が今後ますます大きくなることが予想されます。質の高い整形外科医療がより求められ、それを担う人材の育成が必要となります。本プログラムでは、Ⅰ型の基幹施設である名古屋市立大学と連携しながら、地域医療に貢献できるプライマリ・ケアから療養・介護を含む老人医療を担える、幅広い視野をもった整形外科医を育てることを目標とします。

2. 名古屋市立大学整形外科（大垣市民病院）専門研修Ⅱ型プログラムの成果

名古屋市立大学整形外科（大垣市民病院）専門研修Ⅱ型プログラムを修了した専攻医は、幅広い運動器疾患および外傷に関する専門的知識とスキルを取得することができます。

同時に専門医として求められる社会的倫理観、先進的な医学全般についての知識や技能、接遇も身につけることができます。また、地域医療を中心とした研修によって専攻医は研修期間中に以下のコアコンピテンシーも習得できます。

- 1) 専門医療に必要な患者への接遇、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力
- 2) 医師として自立し、誠実に責務を果たすこと、すなわち医師としてのプロフェッショナルリズム
- 3) 診療記録の適確な記載
- 4) 医の倫理、医療安全への配慮、患者中心の医療の実践
- 5) 基礎医学および臨床医学の知識や技術の習得
- 6) チーム医療の一員としての行動
- 7) 後輩医師への教育・指導
- 8) 地域医療における包括的なチーム医療の一員としての役割を学ぶこと

3. 名古屋市立大学整形外科（大垣市民病院）専門研修Ⅱ型プログラムの目標と特徴

【地域医療に貢献できる幅広い知識と視野をもった整形外科医師を目指して】

名古屋市立大学整形外科（大垣市民病院）専門研修Ⅱ型プログラムは到達目標を

「地域医療に貢献できる幅広い知識と視野をもった整形外科医師」

としています。

整形外科は、運動器の機能と形態の維持・再建をめざす臨床医学であり、脊椎、上肢、下肢などの広範な診療領域を扱います。超高齢社会をむかえた我国においては、整形外科専門医への期待はますます大きくなっています。このプログラムでは、超高齢社会に即した医療を中心に研修を行い、他科と連携したチーム医療・地域医療、特に包括的な医療を担えるような整形外科医師を目指します。大垣市民病院は、地域の中核病院としての役割を担っており、名古屋市立大学整形外科と連携し、専門的な研修も出来るように配慮されています。

本研修プログラムでは基幹施設および連携施設全体において外傷、腫瘍、股関節、膝関節、関節リウマチ、脊椎、肩関節・肘関節、スポーツ、小児・足外科、手外科などの専門性の高い診療を早くから経験することで整形外科専門医取得後のサブスペシャリティ領域の研修へと継続していくことができます。なかでも関節鏡や外傷、スポーツ医学は得意分野の一つであり、一流スポーツ選手の治療やチームドクター・トーナメントドクターとしてのサポートも積極的に行っております。また、名古屋市立大学医学部附属病院における研修ではサブスペシャリティへとつながる専門性の高い研修に加えて名古屋市立大学の大きな特徴である大学院大学の側面を活かして、その後の大学院進学に備えた臨床研究および基礎研究への深い関わりを持つことができます。

その他の連携施設は、関節鏡、手外科、脊椎外科、関節外科、救急医療、リハビリテーションなどそれぞれに特色をもった施設、病院があり、当プログラムもそれら施設と連携し研修することにより、プライマリ・ケアから最先端の臨床・研究までを偏りなく学ぶことができます。多くの手術症例を経験・執刀し、研修終了後に自立した整形外科医として診療が出来ることを目指します。名古屋市立大学整形外科（大垣市民病院）専門研修Ⅱ型プログラムは、専攻医の皆様に素晴らしい研修環境を提供し、個々の能力を最大限に引き出す研修を目指します。また、名古屋市立大学地域枠として地域医療に貢献しようという志をもった専攻医の皆様にも、医師不足地域での地域医療研修義務と同時に多くの専門的な研修と研究の環境を提示できるプログラムとして環境を整えています。

4. 研修方法：

参照資料：整形外科専門研修プログラム整備基準及び付属資料

（日本整形外科学会 HP）<http://www.joa.or.jp/jp/edu/index.html>

4.1 基本方針：

整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って、大垣市民病院および連携施設群において研修を行います。その中には名古屋市立大学のプログラムと連携した研修も含まれます。専門知識習得の年時毎の到達目標と専門技能修得の年時毎の到達目標は、上記の整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 1「専門知識習得の年次毎の到達目標」、資料 2「専門技能習得の年次毎の到達目標」を参照して下さい。研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会整形外科専門医管理システムを用います。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。また、指導医は抄読会や勉強会、カンファランスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。研修実績と評価をもとに、専門研修最終年度の 3 月に研修プログラム管理委員会において、専門研修修了判定を行います。判定基準は【4.6 修了要件】に定めるとおりです。このプログラムおよび専門研修プログラム管理委員会はサイトビジットを含む第 3 者の評価・指導を受けます。またその際にプログラム研修統括責任者、研修連携施設指導管理責任者、指導医ならびに専攻医は真摯に対応いたします。

4.2 研修計画

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靱帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病、外傷、加齢変性などです。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を研修するために、整形外科専門研修は1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、専攻医が基幹施設および連携施設の病院をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、4年間の研修期間で48単位を修得する修練プロセスを目標として研修します。

① 専門知識の習得計画

本研修プログラムでは、専門知識を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し、知識能習得状況を6ヵ月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、評価したデータをまとめた総合評価を参照し、知識習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。専攻医の過半数が獲得できていない知識があれば、これを獲得するためのセミナーを必要に応じ、専門研修プログラム管理委員会が開催します。

② 専門技能の習得計画

本研修プログラムでは、専門技能を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し技能能習得状況を6ヵ月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、評価したデータをまとめた総合評価を参照し、技能習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。専攻医の過半数が獲得できていない技能があれば、これを獲得するためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が開催します。

③ 経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査、手術処置等）

経験すべき疾患・病態、診察・検査、手術処置等は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に明示された症例数以上を大垣市民病院及び連携施設で偏りがないように経験することを目標とします。経験の不足している分野については、その後の研修施設において経験可能なように配慮します。

④ プログラム全体と各施設によるカンファレンス

各研修施設の研修委員会の計画の下、症例検討と抄読会はすべての施設で行います。専攻医の知識・技能習得のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。

⑤ リサーチマインドの養成計画

すべての専攻医が自らの症例を用いて研究した成果を発表するカンファレンスを年1回開催しま

す。研究指導は各施設の指導医が行います。

⑥ 学術活動における研修計画

専攻医が学会発表年 1 回以上、また論文執筆を年 1 本以上行うことを目標に指導します。専門研修プログラム管理委員会は全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年 1 回集計し、面接時に指導・助言します。

⑦ コアコンピテンシーの研修計画

整形外科専門医としての臨床能力（コンピテンシー）には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力（コアコンピテンシー）が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力（コアコンピテンシー）を身につけられることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力(コアコンピテンシー)を早期に獲得できます。大垣市民病院および各研修施設の医療倫理・医療安全講習会に参加し、その参加状況を年 1 回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

⑧ 地域医療に関する研修計画

整形外科専門医制度は、地域の整形外科医療を守ることを念頭に置いています。地域医療研修病院における外来診療および二次救急医療に従事し、主として一般整形外科外傷の診断、治療、手術に関する研修を行います。また地域医療研修病院における周囲医療機関との病病連携、病診連携を経験・習得します。整形外科専門研修カリキュラムの中にある地域医療の項目に沿って周辺の医療施設との病病・病診連携の実際を経験します。

地域医療において指導の質を担保するため、地域医療研修病院の指導医には名古屋市立大学整形外科が主催する整形外科卒後研修セミナーの参加を義務付け、自らが指導する専攻医の集談会あるいは学会への参加を必須としています。また研修関連施設の指導医は、研修プログラム管理委員会に参加するとともに、自らが指導した専攻医の評価報告を行います。同時に、専攻医から研修プログラム管理委員会に提出された指導医評価表に基づいたフィードバックを受けることになります。

本プログラムの研修施設群の中核は岐阜県の名古屋市立大学整形外科の関連病院および愛知県の尾張地域の名古屋市立大学整形外科関連病院医師不足地域となります。したがって、すべての専攻医は連携する大学病院での研修以外は、上記の関連地域病院に勤務します。

⑨ サブスペシャリティ領域との連続性について

整形外科専門医のサブスペシャリティ領域として、日本脊椎脊髄病学会専門医、日本リウマチ学会専門医、日本手外科学会専門医、日本人工関節学会専門医、関節鏡専門医があります。本プログラムの大垣市民病院および連携施設にはこれらサブスペシャリティ領域の研修施設が含まれています。整形外科専門研修期間からこれらのサブスペシャリティ領域の研修を行うことができ、専攻医のサブスペシャリティ領域の専門研修や学術活動を支援します。

4.3 研修およびプログラムの評価計画

①専攻医の評価時期と方法

専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を 6 ヶ月に 1 回行い(9 月末および 3 月末) 専門研修プログラム管理委員会に提出します。他職種も含めた大垣市民病院および各研修施設での研修評価(研修態度も含めた総評)を各施設での研修終了時に行います。専攻医は研修プログラムの取得単位、学会発表・論文執筆数、教育研修講演受講状況を年度末に専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム管理委員会で評価します。上記の総評を専門研修プログラム管理委員会で年 1 回年度末に評価します。

②専門研修プログラム管理委員会の運用計画

専門研修プログラム管理委員会は専門研修プログラム統括(副)責任者を委員長とし、各連携施設の専門研修指導責任者を委員とします。名古屋市立大学整形外科教室に専門研修管理事務局を置き、本プログラムにおける専門研修管理に係る財務・事務を行います。年 4 回の定期委員会(6,9,12,3 月)を開催します。年度末 3 月に専攻医 4 年次の修了判定委員会を行います。必要時に臨時委員会を開催します。専門研修プログラム管理委員会活動報告をまとめ、報告および、研修プログラムはホームページで公開します。

③プログラムとしての FD(Faculty Development) の計画

指導医は整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 12「整形外科指導医マニュアル」に従って専攻医を指導します。指導医は自分の指導技能向上のためのセミナー、講習会に年に一回以上、出席することとします。その他、厚生労働省および日本整形外科学会主催の指導医講習会へ参加し、その参加状況を年 1 回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

④専門研修プログラムの改善方法

専門研修プログラム管理委員会で年 1 回検討し、必要に応じてプログラムの改定を行います。

4.4 専攻医の就業環境の整備機能

専門研修プログラム管理委員会は、専攻医に対するアンケートおよび面接などの手法により各施設の就業環境を調査します。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、専門研修指導責任者に文書で通達・指導します。

4.5 研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計 6 ヶ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することとなります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明する文書の添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が 6 ヶ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が 1 年間遅れる場合もあります。専門研修プログラムの

移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

4.6 修了要件

- ①各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること
- ②行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること
- ③臨床医として十分な適性が備わっていること
- ④研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、
所定の手続きにより 30 単位以上を修得していること
- ⑤1 回以上の学会発表、また筆頭著者として 1 編以上の論文があること。

以上の①～⑤の修了認定基準をもとに、専攻研修 4 年目の 3 月に専門研修プログラム管理委員会において修了判定を行います。

5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医

大垣市民病院では整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」にあるすべての分野を研修することができます。

最新の設備と豊富な症例を経験しながら、専門分野ごとの症例検討や抄読会などより専門的な知識・技能を指導します。

ローテーション予定表（例）

	1年目	2年目	3年目	4年目
専攻医1	大垣市民病院	大垣市民病院	名古屋市立大学病院	小牧市民病院
専攻医2	大垣市民病院	大垣市民病院	名古屋市立大学病院	春日井市民病院
専攻医3	大垣市民病院	大垣市民病院	名古屋市立大学病院	みどり市民病院
専攻医4	中濃厚生病院	中濃厚生病院	名古屋市立大学病院	大垣市民病院

大垣市民病院整形外科週間予定表（例）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	外来・手術	外来・手術	外来・手術	外来・手術	外来・手術
午後	手術	手術	手術	手術	手術・造影検査
	カンファランス				

* 専攻医は、基幹病院研修期間において、「外傷」・「脊椎」・「関節」・「手」の各専門診療グループをローテーションし、
外来・手術を指示の元に担当する。

* 月に一回、症例発表のクリニカルカンファランスを行う

【連携施設群】および 2024 年手術件数

研修病院群と指導可能な研修領域と施設としての研修担当分野

施設名	手術 件数	脊 椎	上 肢 ・ 手	下 肢	外 傷	リ ウ マ チ	ス ポ ー ツ	小 児 整 形	腫 瘍	リ ハ ビ リ	地 域 医 療
大垣市民病院	1,304	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
名古屋市立大学病院	1,205	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
名古屋市立大学医学部附属東部医療センター	1,378	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
名古屋市立大学医学部附属西部医療センター	395	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院	417		○	○	○	○	○	○	○	○	○
名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院	0		○	○	○	○	○	○		○	○
名古屋市立大学医学部附属リハビリテーション病院	0		○	○	○	○				○	
名鉄病院	783		○	○	○	○	○	○		○	○
春日井市民病院	1,686	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
小牧市民病院	1,743	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
公立陶生病院	1,317	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
厚生連海南病院	1,470	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
厚生連知多厚生病院	291		○	○	○	○			○	○	○
厚生連稲沢厚生病院	119		○	○	○	○	○			○	○
豊橋医療センター	1,078	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
豊川市民病院	1,215	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
厚生連中濃厚生病院	790	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
いなべ総合病院	709	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
総合大雄会病院	1,109	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
名古屋徳洲会総合病院	934	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
名古屋共立病院	410	○	○	○	○	○	○	○		○	○
菰野厚生病院	118		○	○	○	○	○	○	○	○	○
蒲郡市民病院	438	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
新百合ヶ丘総合病院	727	○	○	○	○	○	○	○	○		
総合南東北病院	1,636		○	○	○		○	○	○	○	

6. 専門研修プログラムを支える体制

① 専門研修プログラムの管理運営体制

Ⅱ型基幹施設である大垣市民病院においては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価ができる体制を整備します。専門研修プログラムの管理には日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることによって研修プログラムの改善を行います。

上記目的達成のために大垣市民病院に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置きます。

本研修プログラム群には、1名の整形外科専門研修プログラム統括責任者を置き、また、副プログラム統括責任者を1名置き、副プログラム統括責任者はプログラム統括責任者を補佐します。

② Ⅱ型基幹施設の役割

Ⅱ型基幹施設である大垣市民病院は専門研修プログラムを管理し、プログラムに参加する専攻医および連携施設を統括します。

大垣市民病院は研修環境を整備し、専攻医が整形外科の幅広い研修領域が研修でき、研修修了時に修得すべき領域の単位をすべて修得できるような専門研修施設群を形成し、専門研修プログラム管理委員会を中心として、専攻医と連携施設を統括し、専門研修プログラム全体の管理を行います。

③ 専門研修指導医

指導医は専門研修認定施設に勤務し、整形外科専門医の資格を1回以上更新し、なおかつ日本整形外科学会が開催する指導医講習会を5年に1回以上受講している整形外科専門医であり、本研修プログラムの指導医は上記の基準を満たした専門医です。

④ プログラム管理委員会の役割と権限

- 1) 整形外科研修プログラム管理委員会は、研修プログラムの作成や研修プログラム相互間の調整、専攻医の管理及び専攻医の採用・中断・修了の際の評価等専門医研修の実施の統括管理を行います。
- 2) 整形外科研修プログラム管理委員会は研修の評価及び認定において、必要に応じて指導医から各専攻医の研修進捗状況について情報提供を受けることにより、各専攻医の研修進捗状況を把握、評価し、修了基準に不足している部分についての研修が行えるよう、整形外科専門研修プログラム統括責任者や指導医に指導・助言する等、有効な研修が行われるよう配慮します。
- 3) 研修プログラム管理委員会は、専攻医が研修を継続することが困難であると認める場合には、当該専攻医がそれまでに受けた専門医研修に係る当該専攻医の評価を行い、管理者に対し、当該専攻医の専門医研修を中断することを勧告することができます。

- 4) 研修プログラム管理委員会は、専攻医の研修期間の終了に際し、専門医研修に関する当該専攻医の評価を行い、管理者に対し当該専攻医の評価を報告します。
- 5) 整形外科専門研修プログラム管理委員会の責任者である専門研修プログラム統括責任者が、整形外科専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修終了判定を行います。
- 6) 大垣市民病院は連携施設とともに研修施設群を形成します。大垣市民病院に置かれたプログラム統括責任者は、総括的評価を行い、修了判定を行います。また、プログラムの改善を行います。

⑤ プログラム統括責任者の役割と権限

プログラム統括責任者は、整形外科領域における十分な診療経験と教育指導能力を有し、以下の整形外科診療および整形外科研究に従事した期間、業績、研究実績を満たした整形外科医とされております。

- 1) 整形外科専門研修指導医の基準を満たす整形外科専門医
- 2) 医学博士号またはピアレビューを受けた英語による筆頭原著論文 3 編を有する者。
プログラム統括責任者の役割・権限は以下の通りとします。また、副統括責任者がその業務をサポートします。
- 3) 専門研修基幹施設である大垣市民病院における研修プログラム管理委員会の責任者であり、プログラムの作成、運営、管理を担う。
- 4) 専門研修プログラムの管理・遂行や専攻医の採用・修了判定につき最終責任を負う。

⑥ 労働環境、労働安全、勤務条件

大垣市民病院や各研修連携施設の病院規定によりますが、労働環境、労働安全、勤務条件等へ以下に示す配慮をします。

- ・研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- ・研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- ・過剰な時間外勤務を命じないようにします。
- ・施設の給与体系を明示します。

7. 募集人数と応募方法

【専攻医受入数】 各年次 4 名 合計 16 名

【応募方法】 応募に必要な以下の書類を郵送またはメールで下記に送ってください。
選考は面接で行います。

【必要書類】 ① 申請書、
② 履歴書、
③ 医師免許証（コピー）、

④ 医師臨床研修修了登録証（コピー）

【募集期間】 7 月末～9 月 30 日（定員に満たない場合は二次募集も予定します）

【問い合わせ先】 名古屋市立大学整形外科学教室

担当：医局長 木村 浩明

〒467-8601 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町川澄 1

電話：(052)853-8236

e-mail：seikei@med.nagoya-cu.ac.jp